

2月末から3月初めは、24節気のうち「雨水」となります。雨水の前は「立春」、雨水の後には「啓蟄」とよく知っている節気なのに、「雨水」は間にはさまれてあまり有名ではありません。雨水は、雪が雨へと変わって振るようになり、降り積もった雪や氷もとけて水になる頃です。まさしく、冬の寒さから少し暖くなった先週、久しぶりに雨が続く今週がその季節でしょう。雨や風が強くて濡れてしまった人にとっては残念な雨でも、植物にとっては、やっと来たという感じでうれしいことでしょう。



シーラカンス

4億年前から同じ姿のままという幻の魚シーラカンスを高解像度カメラで捉えた番組がありました。化石が見つかり恐竜とともに絶滅したとされていたのに、100年前に偶然網にかかり生き続けていることが分かった魚です。生きた化石といわれるシーラカンスが、海底200mで鮮明に映っている姿に感動しました。  ところが鮮明に映っていたのはそれだけではなく、お菓子の袋やナイロン袋等  のごみ。死んでいたシーラカンスの胃袋からごみが大量に出てきた写真もありました。朝会で子どもたちに、「あなたが捨てたお菓子のごみが、海の底の魚を殺しているかもしれない。気を付けましょう。」というお話をしました。

3年生 こども研究隊

保健所にある環境衛生研究所の方々に来校し、体験学習（子ども研究隊）を実施しました。今年度は、モニターとして姫路市で1校だけの開催ということで城東小学校が立候補しました。「未来を担う子どもたちが身近な科学に興味・関心を抱くきっかけ」となることをねらいとして、体験させていただきました。1つ目はお茶の色が身近なものを使って変えられるというもので、どこの家庭にもある洗剤などの液体を混ぜて色を変化させたり元に戻したりしました。2つ目は、手洗いによってばい菌がどのくらい減るかという実験です。手洗前、水洗い後、石鹸で洗った後、



アルコール消毒の後、の手からサンプルを採り、それを培養する実験でした。進んで手洗いするかな？

子育てや保育・教育の目標

「親子支援ガイド（著 高山恵子）」という本を読みました。そこに、「わたしは子育てや保育・教育の目標は『子どもの特性を理解し、その子が幸せで豊かな人生を送れるように支援すること』ではないかと思っています。」と書かれていました。どの子にもその子の特性があります。大人から見てもよいと思うことよくないと思うことすべて含めて理解してあげることが大切です。なぜ言うことを聞かないのか、なぜ同じことを繰り返してしまうのか、なぜきちんとできるのか、そこにはその子の特性があります。理解するには、どうしてなのかを考える、本やネットで調べる、わからない時は相談する、誰かと一緒に考えることが必要です。特性を知りその子に合った支援をすることで、親も子も幸せな生活につながるのだと思います。ウェル・ビーイングですね。